

尿路感染症

「尿路」とは腎臓から尿道までのことをいい、尿路に細菌が付き炎症を起こすことを「尿路感染症」といいます。細菌がつく場所により「腎盂腎炎」「膀胱炎」「尿道炎」とわけますが、子供の場合には一般的にすべてを「尿路感染症」として扱います。

子供では呼吸器感染症（「かぜ」や気管支炎、肺炎など）について多い重要な病気ですが、症状が明らかでないため診断が困難な場合も多く見られます。「1才未満の乳児期」と「4才～6才」に頻度が高く、1才未満では男子の方が多く、1才以降成人までは女子の方がはるかに多いのが特徴です。

症状 発熱が最も多く、しばしば不明熱の原因となります。特に3カ月未満の乳児の発熱の原因の中では、最も頻度が高い病気です。1才未満の乳児では、下痢や嘔吐、食欲低下、顔面蒼白、黄疸、オムツが赤くなるなどの症状が出ます。幼児期以降では、尿の回数が多い、あるいは反対に少ない、排尿時の痛み、血尿、失禁などの症状が主なものです。

原因 90%以上は「大腸菌」という細菌によって起こります。大腸菌は便の中にいますから、陰部を不潔にしたり手で触ったりすると起こりやすくなります。また、女性は尿道口（尿の出るところ）から膀胱までの長さが短いため、男性より起こりやすいのです。一方、1歳未満の乳児（男児）では、強度の包茎も原因になるといわれています。

検査・診断 検尿によって血尿、白血球尿（膿尿）、細菌尿があれば疑います。検尿はテブや顕微鏡による検査によってすぐに結果が分かりますが、確実に診断するためには尿中の細菌を培養する必要があります。細菌の培養には3～4日かかりますが、疑いがあれば結果が出る前に抗生物質を投与します。

治療 抗生物質を投与すると1～2日で効果が表われますが、1週間前後は投与する必要があります。安静、水分を多くとること、排尿を我慢しないこと、外陰部を清潔にすること（排便後の清拭の仕方の注意）などが大切です。3カ月未満の乳児の場合や、症状が重い時には入院が必要となります。

1才未満の男児の場合や、再発を繰り返す場合には、尿路系の基礎疾患（腎臓・尿管の奇形や膀胱尿管逆流現象など）を持つ場合が多いので、腎臓のエコー（超音波検査）やX線検査をする必要があります。不十分な治療のまま放置された例では、将来腎不全に移行する危険性がありますから注意が必要です。

日常の注意点としては、排尿を我慢しないこと、外陰部を清潔にすること、特に女の子には排便後に尿道口に便（大腸菌）がつかないように拭き方を教えることが大切です。また、汚い手で陰部を触らないように注意することも大切です。